

株式会社朝野家（湯村温泉）

兵庫県新温泉町・湯村温泉にある創業1967年の老舗旅館。地上8階建て「お城の宿」として華道・茶道・香道を重んじた高級旅館を運営し、従業員約100名。地域貢献と顧客感動を理念に掲げ、「感涙経営」を目指す宿として知られる。館内すべてに98℃の源泉を配湯し、温泉を活用した独自サービスを提供している。

【会社概要】

※2025年3月時点

会社名 | 株式会社朝野家

本社所在地 | 兵庫県美方郡新温泉町湯1269

事業内容 | 旅館業

従業員数 | 約100名



『脱炭素経営を実践している事例紹介』

『温泉熱を活用して電気をほとんど使用せずに館内冷暖房を運用』

朝野家は湯村温泉がもつ98度という高温の特徴を活かして、37年前から館内の冷暖房と給湯に温泉熱を活用しており、化石燃料ボイラーを一切使わない運用を実現しています。館内すべての温水蛇口からは温泉が出ていて、パントリーや洗浄機での洗い物も温泉が利用されています。それにより、水道光熱費は一般の旅館の70%程度となっています。湯村温泉にある約500戸の家庭・旅館、役場・小学校などの公施設にもすべて温泉が水道料金と同じく配湯されていて、家庭での配湯はお風呂・洗濯機・台所・玄関先に蛇口があり、瞬間湯沸かし器なしに利用されています。

次世代エネルギー技術の導入にも積極的に挑戦

平成7年に館内割りばしを回収して製紙工場に宅配したことをきっかけに、平成23年にペルチェ素子を活用した温度差発電実験、平成25年には小型バイナリー発電スタートなどに関わってきました。現在も、民間レベルで温泉の新たな可能性を追求するため、ペルチェ素子発電や小型バイナリー発電の試験を繰り返し実施。ペルチェ素子の導入・利活用の可能性を検討しています。

地域の特性を活かした環境学習

湯村温泉のSDGsの取り組みを広く知っていただくため、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークにもガイド団体として登録されており、弊社社員の認定ジオガイド26名がおり、湯村温泉地内を1時間前後歩きながら、住民日常温泉と「湯がき文化」、現代の温泉熱発電など省エネと温泉のポテンシャル、湯村温泉の高温泉自然湧出の仕組みと温泉を利用したまち創りをご案内しています。（参考 | 令和5年度ガイド利用者実績：約4,000人）

湯村温泉が一体となった取組も多数推進

施設単体としてのみでなく、湯村温泉が一体となって脱炭素、環境を考慮した取組を進めています。例えば、平成20年から旅行組合で天ぷら油を回収し廃油のBDF（バイオディーゼル燃料）化に取り組んでいて、その燃料は保育園の送迎バスやごみ収集パッカー車などに使用しています。地元のスーパーから「我々もお客さんから油を集めているため参加したい」といったお声掛けもあり、「みかたECO協議会」を立ち上げました。「薬師湯」に温泉熱小型バイナリー発電施設の整備において、環境省の再生可能エネルギー等導入推進基金（グリーンニューディール基金）を活用。こちらは地域として申請を行い、取組みました。旅館同士の横の繋がりが強く、県外事業者も含めた経営会等で各施設の取組に関する情報連携を行っています。これからも湯村温泉が一体となってこれらの取組を続けていきたいと考えています。

